

一宮西高校同窓会報

発行
愛知県立
一宮西高等学校
同窓会

創立三十周年を目前にして

同窓会監査 松山 猛



西高同窓生の皆様に
おかれまし
ては、ます
ますご清栄

のこととお喜び申し上げます。
例年八月に開催されます同窓会総会も、
回をかさねることに盛大となり、同窓生
の懇親を深めるのみならず、各界各層で

の皆様の一層のご活躍に資する誠意に有意
義な集いと発展してまいりました。
これも同窓生皆様のご援助の賜物と心
より御礼申し上げます。

さて、一宮西高校は平成五年に創立三
十周年を迎えることとあいなります。平
成三年度において同窓生一万人を数える
までに発展したと言えども、第一回生が
ようやく社会の中堅となりつつある、ま

ちよつと、気になる話

学校長 新屋 哲夫



高校進学
率が、九〇
%を越す昨
今、多種多
様の生徒が

入学している。高校に対する色々の批判
もあるが、各高校与えられた生徒に懸命
に努力しているのが実情である。各学校
を大別すると次のようである。
一、多様な生徒が在籍し、学習、生徒指

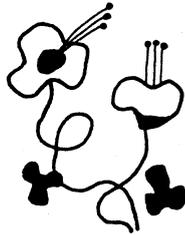
導面等で課題の多い学校。
二、県内における普通科として平均的な
学校
三、生徒の大多数が大学進学希望である
学校。

本校は、三の優秀部類に入り、卒業生
の誇りとする学校であり、地元中学生の
入学したい学校の一つになっている。
この三月の大学進学は、例年どおりの
実績をあげ、特に今年には国公立大学志向

まだまだ若い高校であります。

今後より一層、教育環境を充実し、さ
らなる発展を目指し、社会に資する有為
な人材を輩出して頂かなければなりません。
そしてこの三十周年を機会に、同窓
会と致しまして、母校の充実発展に寄
与することができましたら幸いと存じま
す。是非、同窓生皆様のより一層のご援
助を賜わりたく重ねてお願い申し上げま
す。

末尾となりましたが、本年も同窓会総
会を八月四日に開催の運びとなりました。
ご多忙のところ恐縮に存じますが、なに
とぞご参加頂けますようお願い申し上げ
ます。



の強い土地柄が、三百五名の合格をみた。
一方部活動も盛んで高校総体尾張地区で
三年連続総合優勝しており、西高祭も先
輩からの伝統を受け、青春を謳歌しなが
らも大学受験への切替えも見事であった。
三十年近くの歴史の積み重ねが今ここに
ある訳で、まさに成熟期の学校であると
自負している所です。

四月に入り、新制度の複合選抜入試制
度による生徒が出揃い、心新たに伝統の
継承をめざして努力しているが、運動部
が相次いで敗退し、生徒会長は立候補な
し、やっと五月下旬に決着、進路部の先
生方は、模試の結果をみて顔面蒼白にな
り議論が多くなる。勉強も部活動も生徒

総会のお知らせ

本年度の同窓会総会を左記の要領で実施い
たします。
多数のご出席を心待ちにいたしております。

- 日時 八月四日(日)正午開始
終了後、懇親会を準備
しております。
- 場所 真清田神社 参集殿
- 会費 二千元
(ただし学生は千円)

※なお、準備の都合上、出欠席
の葉書を七月二十日までに
出してくださいようお願いいた
します。

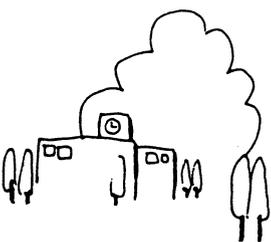


会もリーダーがない。温厚すぎる。な
どなど意見が交わされる。

この現象は一過性のものでしょうか
「チョット気になる」校長の不安が起こ
る。行事や部活動をいつ見直し、進学校
の特色を維持するか、難しいものだ。

平成五年度は、三〇周年をむかえる。
PTA、同窓会の協力を得て記念事業を
計画したい。事業に伴う財源の確立は必
須条件であるが、父兄負担の軽減は、教
育委員会の強い指導があり、同窓会への
依存も過去の実績から無理なような気が
する。縦・横の組織力の弱さがあるのか
総会も不発の感がある。
三〇周年事業も「文武両道」の実績を

もつ、名門高校にしては、「チョット気
になる」校長の不安である。
卒業期ごと、クラスごとの同窓会が活
性化され、それが大きな固まりの縦組織
としての同窓会となれば……と願ってい
る。



西高を去るにあたって 離任式のあいさつから

伊藤 幸雄



いよいよ西高とお別れする日が来ました。私が西高に

着任したのは昭和47年の春でした。その年は群制度の準備とかで大勢の方が赴任してみえました。たしか全日制だけで9名だったと思います。この方々も時とともに西高を去られ、私を最後に、この春で同期の桜は一人もいなくなりません。想えば長く短い19年でした。

西高の思い出は数限りなくあります。定時制の諸君も一緒に参加した耐寒マラソンや卒業式。学校群制度発足に伴う産みの苦しみの数々。大学入試改革に対応して、私も参画させていただいて改められた校内の諸制度や学校行事、例えば現在の類型別カリキュラムやメニュー方式の修学旅行等々です。

中でも私の心に最も強く残っているものは大学入試にまつわる数々の場面です。寒風について担任の先生方で激励に出かけた大協の共通一次テストとか、合格発表当日の興奮に満ちた職員室の様子などです。共通一次の日にはよく雪が降りました。しかし、西高生は寒さなどは気にしません。「燃えて栄光」の横断幕のもとで氣勢を上げたのですね。

国立大学の合格発表日には大学へ出向かれた先生方から刻々入ってくる電話に一喜一憂したものです。その日の夜は祝賀会になったり残念会になったり。

ここ数年は祝賀会ばかりで大いに盛り上がりました。校長室の隣の廊下の大学合格者の名札板も増設につぐ増設という有様です。そんな訳でも西高では感激と充実感をたっぷり味わわせていただきました。

それにしても我が西高の生徒諸君は優秀です。かつて、拓植元校長は「天下の英才を得て、これを教育するは(一)のの楽しみなり」と、「孟子」の君子三樂の章を引用して我々教師や生徒の話をされたことがあります。まったくそのとおりだと思います。教師第一の楽しみを19年間も満喫させていただいて思い残すことはありません。

さて、赴任先の南陽高校で私が機会あるごとに言い続けていることが二つあります。一つは信頼関係を大切にしようというところであり、いま一つは感激に満ちた高校生活をおくれということ。言わずとも知れたことですが、これは一宮西高を強く意識して出てきたことばです。西高は生徒と先生方が信頼関係で強く結ばれた学校であると思います。生徒一人一人が学習に、部活動に、学校行事に全精力を注いでおります。そしてそれが立派な成果となって表われているからこそ、全校が感激に満ちた高校生活を送れるのだと思います。私が参ります南陽高校もこんな西高に少しはあやかりたいと思っております。

楽しい19年間を過ごさせていただき本当に有難うございました。本校の益々の発展を祈ってお別れの言葉といたします。(4月8日の離任式で右のような挨拶をいたしました。同窓会の山内先生から西高の思い出を書けとの依頼がありました)

が、卒業された皆様にごお別れの挨拶をさせていただきたくて、ここに抄録させていただいた次第です。

「大学」という新世界 鈴木めぐみ



卒業して二カ月。今までただ「学校」と呼んでいた

存在がいまや「母校」と呼ばなければならなくなりました。駅で緑色の学年章を付けた新入生をみかけたとき、私はそう感じていました。

大学という所は受験生時代に考えていたものとははるかに掛け離れた世界でした。毎日毎日満員電車で揺られて、へとへとなるまで坂道を登り続けて、そしてやっと大学に着いたと思つたらカルチャーショックの連続なのです。私の通っている大学は「平和憲章」を持ち、戦争には一切加担しないと誓っている数少ない大学のうちの一つで、私が初めてその条文中、「……わが国の大学は、過去の侵略戦争において……戦争を肯定する学問を生み出し、……さらに、多くの学生を戦場に送り出した。こうした過去への反省から……」という部分を関西弁の先輩の声で聞いた時には、私が受験勉強をしている間に日本列島が、いや世界全体が動いていたのだと改めて気付かされ、なんて意識の低い状態で受験をし、大学生になってしまったのだらうと今までの偏った自分が情けなくなりました。

そればかりではありません。多くの教授や院生など、最先端に生きておられる方々と語り合う機会を得て、私の人生観は大いに変わりました。「世界、その中の日本」こういった目で見られるようになったのは大きな前進だと感じています。そして農場の見学の際には、農業だけでなく、生物自体を肌で感じた、そんな気がしています。

何かもが発見です。毎日が記念日のように輝いています。私を迎えた新世界はそんな素敵どころでした。

昭和41年に西高として独立してから、少しずつ学校らしくなってきました。校歌ができた時「くぬぎ林」という詩に驚きました。当時、くぬぎなど一本たりともありません。校長先生に相談した所、早速くぬぎ種を取り寄せて蒔いたことを今でも忘れられません。

一・二・三回生の卒業式の時、「おじさんありがとう」と礼儀正しく去っていった姿も懐かしく思い出されます。開校当初は何の設備もありませんでしたが、文化祭などのエネルギーは今も伝統として残っています。また、弥生式土器の発見も懐かしい思い出です。

在職26年、今色々な思いで胸が一杯です。この3月に退職いたしました。

最後に、この大なる一宮西高校の伝統の益々の発展を祈念して、26年間という長い間本当に有難うございました。

私と西高

用務員 小川 専治

東京オリンピック、新幹線開通の昭和39年分校として創立され、翌年用務員として勤務することになりました。当時は普通科四クラスと昼間定時制合わせて二百人位だったと思います。一万坪の土地に小さな二棟の建物。毎日が草取り、石拾いばかりでした。生徒達は明るくの人

30周年記念事業への御協力のお願い

母校は平成5年度に創立30周年をむかえます。同窓会では現在、学校やPTAと提携して記念事業の計画をすすめています。詳細については次の会報でお知らせできると思いますが、その節には会員の皆様のご協力を是非ともお願いいたします。

同窓会役員一同

昨年度総会の報告

平成二年年度の総会は、八月五日正午より真清田神社参集殿を会場として実施されました。例年通り、快晴の大変暑い日でした。この快適な会場を使用するのはこれで三年目。だいたい定着してきた感があります。ただ参加者の数が一向に増えないのは残念です。昨年度は特別会員、一般会員合わせて七二名。昨年度もまた旧職員・現職員の先生方に多数出席していただきました。あらためてお礼を申し上げますとともに、一般会員の皆さんの積極的な参加を強く望みたいと思います。

さて、会は山内同窓会長ならびに母校校長の新屋先生の挨拶に始まり、七名の歴代校長先生、すなわち竹内先生、浅野先生、樋田先生、加藤先生、植権先生、鶴田先生、林先生から挨拶をいただきました。そして議事に移り、平成元年度の事業報告・会計報告がそれぞれ承認されました。その後役員選出に移りましたが、昨年度は母校校長の異動にともない、新顧問に新屋先生を推すことが承認されました。ついで平成二年度の事業計画・予算案がそれぞれ承認されました。

写真撮影の後、懇親会に移りました。今回は全日制の第三回生と第六回生とがあらかじめこの懇親会の中で学年同窓会を企画したのですが、残念ながらこれまでの盛況とは言いがたいものでした。それでも各テーブルでは恩師の先生方を囲んで思い出話に花が咲き、ついつい時間の経過を忘れるほどでした。最後は恒例になりました校歌の斉唱。一宮西高校の校歌は天下に誇るに足るものであるとおっしゃった先生が見えますが、久しぶりに

歌う校歌にその良さを実感した人も多かったのではないのでしょうか。

今年度もまた八月に総会を催します。毎年総会を開くという事は、率直なところ、役員をはじめ関係者にとってはかなりの負担です。それをあえて続けているのは、ひとえに同窓会活動をもっと盛り上げたいからにはほかありません。二年

後には一宮西高校は創立三十周年をむかえます。同窓会活動にとっても大事な節目です。会員の皆様には是非とも同窓会に対する関心を高め、積極的に総会に参加していただきますことを切にお願いいたします。

平成二年度 東京支部会の報告

昨年十二月一日(土)、新宿区高田馬場にある「紫蘇の実」にて、毎年恒例の東京支部会が開催されました。学校側からは安田・山内両先生に来ていただきました。それに東京近辺に在住の社会人・大学生が参加し、出席者は全部で四十名を数えました。特に今回はじめてこの会に昨年春に大学を卒業した社会人の方が参加したことは、東京支部会の今後の発展のためにたいへん意義の大きなことだと思います。会は先生方のあいさつからはじまり、約二時間にわたって親睦を深めました。半年ぶり、一年ぶりの再会、少し雰囲気が大いびり、全く変わっていません。いろいろなこと、今の大学生活のことなど、それぞれに話が盛り上がり、高校時代の友だちのすばらしさを改めて感じました。一参加者として、今後もこのような機会ももちろんですが、ほかに卒年度別にも集まりがもてればと思います。それにもっと多くの社会人の方にもこの会に参加していただき、一宮西高校の卒業生として東京に住むものの絆をもっと深めていきたいと考えています。(東京大二年 木野修宏)

第六回生同窓会

私たち全日制第六回生は、昭和六十一年一月にはじめての学年同窓会を開催したのですが、それから5年後、今年一月六日に再び学年同窓会を開くことができました。話のおこりは昨年八月の同窓会総会のこと。幹事や参加していた特に女性陣の間から、また学年同窓会を別の場でやろうとの声がありました。そして前回の有志幹事団に新しいメンバーを加え、十月ごろから準備に取りかかりました。今回恩師の先生方については、三年生のみならず一・二年生の時にお世話になった先生方にも案内を出しましたところ、戸田元照先生、服部昭子先生、田村伸恵先生、南部博先生、永田敬三先生からご出席の返事をいただきました。当日の一月六日はあいにく朝から雪が積もり、参加者の出足に気をもみましたが、それでも会場の「一宮市「江美」」には前記の五名の先生方のほか、同期生が幹事団を含めて六十八名出席するという盛況ぶりでした。思い出話に花を咲かせること、二時間あまり、約二十年の歳月を飛び越えて高校生時代に舞い戻ったような錯覚にとらわれてしまいました。最後は校歌をうたい、万歳三唱をして閉会。その後の有志幹事会では、次回の学年同窓会はまた五年後に予定しようということになりました。今回都合で参加できなかった人は、是非次回には顔を見せてください。また有志幹事として動いてくれる人も募集します。五年後、四十代に突入して級友たちがどのように変貌するか、今から楽しみにしています。

第25回生年度幹事

- 1組 山田 豊弘・清水 朋美
- 2組 浅井 孝至・三宅 由花
- 3組 内藤 久嗣・廣部 純子
- 4組 木下 祐二・中岡 祥子
- 5組 安福 俊哉・稲葉みわこ
- 6組 加藤 学・丸井 由美
- 7組 松井 邦臣・鈴木めぐみ
- 8組 山下 純一・佐分 日春
- 9組 奥村 太郎・森岡 真理
- 10組 森 博昭・森 千保美
- 11組 細田 卓二・柴山 尚子
- 第25回生常任幹事 鈴木めぐみ



卒業記念品



第6回生同窓会

職員の異動

※転任 (敬省略)

教頭 伊藤 幸雄(南陽高校長)

江村 弘(西尾高校教頭)

国語 大野 和美(稲沢高校)

社会 工藤正太郎(稲沢東高校)

理科 井上 幹雄(西春高校)

牧野 益明(西春高校)

養護 遠山久美子(尾西高校)

助手 今井 秀明(阿久比高校)

※退職

用務員 小川 專治

※着任

教頭 浜家 正兵(祖父江高校)

岩田 隆(一宮西高校)

理科 森谷 和司(豊丘高校)

家庭 近藤恵里子(常滑高校)

養護 加藤 広子(尾西高校)

大学合格者数一覧

昨年度も卒業生諸君がよく健闘し、名古屋大学をはじめとして、各大学の入試に立派な成果をあげることができました。本年度も微力ながら精一杯がんばりますので、よろしくお願ひします。

〈全 体〉	
国立大学	277(48)
公立大学	28(5)
私立大学	590(165)
公立短大	96(3)
私立短大	135
専門学校	14

〈主な私立大学・短大〉	
慶応大	11(7)
早稲田大	15(8)
愛知大	62(26)
南山大	66(10)
名城大	70(25)
同志社大	10(6)
立命館大	26(8)
名市短	23
岐女短	29(1)
名大医技短	10(1)
南山短	11
淑徳短	34
金城短	31

※()内は浪人(内数)

〈主な国公立大学〉	
東京大	3(2)
東京工大	2(2)
一橋大	3(2)
岐阜大	31(4)
名古屋大	57(7)
愛教大	41(2)
名工大	19(2)
三重大	57(6)
京都大	8(1)
愛知県大	11(2)
名市大	10

部活動大会成績

本年度の総体及び文化部活動結果です。今後ともOBの方々を始め何卒御支援の程、お願い申し上げます。

〈運動部〉

○ラグビー

○卓球男子

○体操・新体操女子

○ハンドボール男子

○バドミントン男子

○剣道女子

○軟式テニス男子

○文化部 平成二年度

○放送

総合文化祭ビデオレター部門

NHK杯全国高校放送コンテスト

テレビ自由部門

全国大会出場

優秀賞

校内放送活動

研究発表部門

優良賞

全国大会出場

金賞

西尾張地区大会

愛知県吹奏楽コンクール

○プラスバンド

一年間の成績で地区大会ベスト8以上の部のみ参加。

部のみ参加。

合宿日程

期	日 時	男 子	女 子
I	7/28(日) ~	●バレーボール ●ハンドボール ●体操 ●水泳	●バスケット ●水泳 ●体操
	7/31(水)		
II	7/31(水) ~	●卓球 ●野球	●卓球 ●バレーボール ●軟式テニス
	8/3(土)		
III	8/3(土) ~	●軟式テニス ●弓道 ●バドミントン ●陸上	●弓道 ●剣道 ●陸上
	8/6(火)		

編集後記

めつきり夏らしくなってきましたが、会員の皆さんにはお元気にお過ごしのことと思います。

「一宮西高校同窓会報」も八号を数えることができました。

学校の方は、三十周年を間近に迎え、記念事業等の準備を進めつつあります。

今回編集にあたり、同窓生の近況が少なく、淋しく感じられました。5行通信という形で募集しておりますので、ふる

って連絡をお願いいたします。

昨年度体育祭の マスコット



同窓会 5行通信の募集

現在、同窓生の皆さんの近況を5行程度(約80字程度)で募集しております。(30周年記念行事の御意見もありましたらお聞かせください)

あて先 〒491-03
一宮市萩原町申作字河田1番地
一宮西高校 同窓会事務局